

〔空穂物語 藏開上〕かくて御うぶやしなひの三日の夜は、左大將殿し給略。中とじき。十ぐばかりにて、碁のせに百くわんなんありける。

〔空穂物語 嗟哦の院二〕かゝるほどに、源中納言殿より、ひはりごたゞのわりご、とじきなどいとおほう有御まへどもにまいる、人々にもたぶ、

〔源氏物語 桐壺〕このきみ源の御わらはすがた、いとかへまうくおぼせど、十二にて御元服し給略。中その日の御まへのおりびつもの、こ物など右大辨なんうけたまはりて、つかうまつらせける。どんじき、ろくのからびつどもなど、ところせきまで、春宮の御元服のおりにもかすまされり、

〔河海抄 桐壺〕どむじきろくのからひつ 屯食下膳ニ給ふ飯也、中略

屯食事 延長七年二月十六日、當代源氏二人元服略。中深更大臣以下給祿、兩源氏宅各調屯食

廿具、令分諸陳所々、天慶三年親王元服日屯食事、内藏寮十具、穀倉院十具以上檢校、太政大臣、御之調也、衛門府五具督仰之調也、左馬寮五具御監仰之調也、別宜南殿假位東其春興殿西、立辛櫃十合、伴等物、有宣旨自長樂門

出入、上卿仰辨官分給所々、夫二人勾當其事仰檢非違使令給辨官三、太政官二、左右近衛三、左右兵衛二、左右衛門二、藏人所二、内記所一、藥殿一、晝所一、内堅所一、校書所一、作物所一、内侍所四、或

采女一、内教坊一、糸所一、御匣殿一、

〔源氏物語 寄生四十九〕その曉におどこにてむまれ給へるを、宮もいとかひあるさまにて、うれしくおぼしたり略。中五日の夜大將殿よりとんじき。五十具、碁のせに、わうばんなどはよのつねのやうにて略。下

〔河海抄 寄生八〕五日のよは、大將殿よりとんじき五十具略。中

天曆四年閏五月五日、此日自中宮給産餉息所前衝重廿枚、面打敷等蟬翼有銀筒箸上洲濱等酒壺具如例、有男女房饗各用朱臺盤、荒飩食十具中略九條右丞相記、同記曰、當第七夜姬宮政所設饗饌、息所